

## 第2回帯広市総合計画策定審議会第3専門部会 議事概要

1. 日 時 平成20年2月8日(金) 9:00~12:00

2. 場 所 市役所5階フロアー会議室

### 3. 議事概要

(まちづくりの課題と取り組みの基本方向について)

#### (1) 環境保全・公園・緑化について

##### 【委員】

人の育成という意味合いも含めて環境を考えるべきではないか。

##### 【委員】

長年培ってきた帯広の森を活用し、子どもを含め地域が一体となって環境を守っていく意識を高める方向性を持たないものか。

##### 【部会長】

学校等での環境教育もあり、子どもの方が環境を守る意識が高く、逆に大量消費・大量廃棄の中を生きてきた大人の方が意識が低い面もある。

##### 【委員】

学校版ISOは今多くの学校で取り組んでおり、子どもたちはそうした意識をもっているが家庭に戻ると元に戻ってしまう。そのギャップが大きいと感じる。

環境は帯広だけの問題でなく地球規模の問題になっており、今後10年で益々厳しくなっていくことが予想される。このため地域としても本気で取り組むことが必要。

##### 【委員】

一般に自然環境に恵まれていると言われるが実際には恵まれていない。原生林はほとんど残っておらず人間の手が加わったものがほとんどと感じている。最も心配なのは防風林がどんどん切られていること。防風林は風を防ぎ農地の土を守る機能がある。中国などは砂漠化が進んだところに懸命に植樹しているが。表土がなくなってから木を植えても遅いということを理解してもらわなければならない。

また、帯広の森は当初は注目を集めたが、その後の育林が停滞しているように感じる。

【委員】

防風林は十勝の代表的な風景であり、次世代に引き継ぐべき文化だと思う。環境面のみならず景観を守るという視点で守っていくことも必要。

【委員】

並木も立派なものは少ない。また、街の中の緑も少ないと感じる。

【委員】

京都議定書のCO<sub>2</sub>の削減目標のクリアが厳しいと言われる中、自動車、産業、各家庭での消費エネルギーの削減が注目されているが、CO<sub>2</sub>を吸収する植物を植えていくことに目を向けて行ってもよいのではないか。

【委員】

30年前から防風林の伐採は問題になっていたが、農業の機械化とともに伐採が進んできたのだと思う。

【委員】

町内会で処理した街路樹の枝を清掃車が回収せずにトラブルになったことがあったが、市民協働はこうした分野で進めていくことを考えることも必要ではないか。また、食の環境という視点から学校給食などで十勝の素材をもっと使っていくべき。

【委員】

地元のものは使いたい金額的に合わないという実態もある。

【事務局】

少しずつではあるが地元産の食材を学校給食で提供する取り組みは進めているところ。

【委員】

帯広の良質な水や空気を今後も維持・継承していかなければならない。

【委員】

観光資源としてもPRしてきており地域で守っていくことが必要。

【委員】

水と空気を活かすのなら花粉の疎開ツアーの受け入れなども考えられるのではないか。

**【委員】**

防風林から学び市街地に緑を増やすことを考えられないか。統廃合された学校の跡地の活用も考えられるのではないか。

また、剪定した木の枝は1メートル以内に切らなければ持って行ってくれない。市民協働で緑を増やすということを考えるとどうにかならないものかと思う。

**【委員】**

草木も年何回か回収日を決めて回収する方法もあるのではないか。

**【部会長】**

行政が市民協働と呼びかけても市民はどこまでやっていいのかわからないところもあるのではないか。例えば街路樹の剪定もここまでなら個人でやってもよいという指針があれば市民も取り組みやすい。

**【委員】**

いくらかの謝礼で町内会に管理を委ねても良いのではないか。

**【部会長】**

市民協働を市の仕事を請け負うという構えた形でなく、手が空いているときに自分ができることをやるという形で取り組むことが環境保全にもつながっていく。市民一人一人に自分たちの環境を自分たちで守るという意識が生まれればいい街になっていくのではないか。

**【委員】**

街路樹も街にしかないが郊外にも増えたらよいと思う。

**【委員】**

街路樹がたくさんあったほうがよいという人もいれば掃除が大変だからいらぬという人もいて、全員が満足するのはなかなか難しい。また、子どもが公園で遊ばないといわれるが、公園使い勝手や適正配置などを検討する機関があってもよい。今後、公園は、維持やリニューアルを考えることが必要。

**【委員】**

児童公園は市が管理してお金もかけているが、市民協働で整備したちびっ子広場の管理に対する補助はわずか。遊具が老朽化しており市が補助して計画的に更新していくことが必要。

【委員】

公園は何らかの利用がされていけば良いが、利用されていないところは何が問題か考えていかなければならない。外で遊ぶことを促すためノーテレビゲームデーのようなものがあったらよい。

【委員】

花園小でノーテレビデーの取り組みがあったが、もっと広がりがあってよい。

【委員】

ちびっ子広場も少ないが利用はある。

【委員】

地域に子どもがおらず、広場の遊具も老朽化しており、子ども会もないという地域もあり、子どもを育てる環境としては厳しい環境。

【委員】

ちびっ子広場は地域の人々の寄附等により作ったものだが維持には限界がある。

【委員】

一時的な避難場所として活用するなど公園には色々な利用の仕方がある。

【委員】

地球温暖化対策を考えた場合、エネルギーはまだまだ削減の余地があるが、市民の間に省エネ意識は十分に浸透していないのが現状、啓発は引き続きやっていかなければならない。一人一人の行動は小さなものだが、その積み重ねが大きなエネルギー削減効果を生み出す。

【委員】

廃棄物など食料と競合しない材料を活用していく方向でバイオエタノールの研究をさらに進めるべき。

【委員】

太陽光発電のほか、温泉や工場の廃熱、冷熱、家畜ふん尿の利用など十勝の地域性を活かした新しいエネルギーの利用促進ができればよい。

【委員】

太陽光発電の価格は下がってはきており補助金もあるが、設置費の元を取るのが難

しく、企業もPRのために設置しているのが現状。普及に向けてメーカーにも頑張ってもらわなければならない。

**【委員】**

街路樹の剪定で出る枝の量は膨大。帯広の森から出るものも含め、こうした材料を例えばペレット化することで、資源を有効に活用することができないものか。

**【部会長】**

捨てているもので使えるものはかなりあるものと思う。環境負荷の軽減にこうしたものを利活用できればよい。大人自身が大量消費・大量廃棄時代を生きてきた世代だが、子どもの頃から物を大切にす教育を行っていくことも必要。

**【委員】**

地球環境・温暖化対策を考える上で大事なことは市民一人一人の意識。原油価格の高騰で家庭の関心も高まりつつあるところだと思う。学校でもまだ省エネの余地はあり、学校内での取り組みから子どもの意識を育てていくことも必要。

**(2) ごみ減量・資源化**

**【委員】**

エコバッグの取り組みは帯広ではなぜ広まらないのか。

**【委員】**

例えば、店でのポイント付与など、消費者にとってのメリットが感じられる環境になっていないのではないか。

**【委員】**

ごみ収集の有料化後、河畔林などで大量のごみが捨てられているのが目立つようになった。

**【委員】**

不法投棄は厳罰化すべきである。

**【委員】**

未だにごみの不法焼却を行っている人もいる。

**【事務局】**

廃棄物処理法に不法投棄に対する罰則規定があるが、法の運用上なかなか行き届か

ないのが現状であると思う。

**【部会長】**

包装が過剰であり、ごみをつくらないという視点も持たなければならない。

**【委員】**

容器・包装のごみは大量に出ている。リサイクルできるものは積極的に回収に取り組むべき。

**【部会長】**

商店街などの小売店で簡易包装やエコバックの利用促進に率先して取り組まなければならない。環境の問題は先手先手で取り組むことが必要。

**【委員】**

エコバックもどこまで浸透できるか。また、割り箸の回収を行っているところもあると聞く。小さなことでもコツコツと取り組むことで大きな効果を生み出すものと思う。

**【部会長】**

アンケートでは環境・リサイクル活動に取り組む企業が多いという結果が出ているが、励みになるような社会的評価がなかなか得られない。環境やごみの問題への対応をより進めていくために、例えば優良企業・団体を表彰するなど、インセンティブも必要ではないか。他に対するPR効果も期待できる。

**【委員】**

資源の集団回収を業者に任せずに町内の人々が毎週集めている取り組みもある。こうした取り組みを支援することも必要ではないか。

**【部会長】**

そうした市民レベルの取り組みを多くの人に知ってもらい、少しずつ取り組みを広げていくしかないのだと思う。

**【委員】**

ごみの資源化・減量化は、市民が日頃取り組んでいる協働の取り組みを大事にしていくことが基本になるものと思う。

**【部会長】**

リサイクル活動だけでなく、市民協働という視点から継続的な活動で地域に貢献し

ているグループや会社などをどんどん表彰すればよいのではないか。

**【委員】**

総合計画で目標をしっかりと示すことが、協働で地域の問題に取り組むという意識醸成につながっていくのではないかと。

**【委員】**

ごみの減量化という視点で言えば、エコバッグ持参者への何らかの特典の付与を大型店に呼びかけられないか。レジ袋のコストを削減できる企業と消費者の双方にメリットがあることだと思う。

**【委員】**

一企業の取り組みではなく地域的な連携が出来ればよいと思う。

**(3) 河川について**

**【委員】**

かつて、市内を流れる川には魚が沢山いた。河畔林がありそこに虫がいて魚がいるのが本来の姿であり、河川工事の際は小さな生き物への配慮が必要。

**【委員】**

市内に昔の川を取り戻し河川に親しむ空間として水辺の楽校が整備されている。

**【委員】**

河川整備を含め、子どもの周りから危険を取り除くという社会になってきているが、子どもは危険なことを経験しながら学び成長していく。今の子どもは何が危険なのかわからない。すべてを完璧なまでに安全にするのではなくある程度の危なさがあったも良いのではないかと。

**(4) 景観について**

**【委員】**

条例化を含め、防風林の話を含め十勝の景観のあり方について整理し、共通の認識に立ちながら景観形成の取り組みを進めるべき。

**【部会長】**

例えば、景観のために防風林を残そうとしても、農家に対して何らかプラスになる形にしていかなければ防風林は守れない。景観を守るためには地域の人々の生活に対する配慮がなければ守り切れないのも現実。

**【委員】**

失われてから後で気付いても遅いということを理解してもらうことが必要。まず、防風林を切ることがどんな結果を招くのか知ってもらうのが一番だが、それでもダメな場合は法による規制なども必要。

**【委員】**

駅前景観はどうあるべきか。そのために何をすべきか考えなければならない。

**【部会長】**

それぞれ目的があって建物を建てるものであり、景観づくりを進めるなら何らかの誘導施策が必要。

**【委員】**

空港から街に来る道に防風林や街路樹もなく、観光振興を進める一方で景観づくりは進んでいないのが現状ではないか。

以上